

2014年度も常勤は庄野1名で、済生会熊本病院心臓血管外科で佐々医師が2回/月、外来で応援を行った。担当した入院患者数は前年度の251名から218名と若干減少した。高齢者の心不全（再入院を含む）の増加もあるが、脳外科医師減少に伴う脳血管疾患患者の担当が影響している。

地域の高齢化がどんどん進んでおり、三角町の65歳以上の高齢化率は40%を超えたと聞いているが、当科で担当した入院症例も年々高齢化が進んでおり、平均年齢は80.6±11.5歳（中央値83歳）で、前年より1歳ずつ上昇したことになる。65歳以上の高齢者の割合は91%であった。

入院の内訳は、心不全が最も多く54例であった。心不全例の年齢は、平均82歳であった。死亡は6例だった。心不全の詳細を見ると。虚血性心疾患14例、心筋症9例、弁膜症11例、高血圧7例となっており、心房細動の合併症例は15例28%にみられた。

急性冠症候群や安定狭心症の多くは熊本病院へ紹介しているため少ないが、入院では急性心筋梗塞6例、狭心症、OMIは8例であった。

その他、不整脈10例、血管疾患6例、弁膜症では高齢の大動脈弁狭窄症が13例と増加している。

急性心筋梗塞は19例（CPA0A8例を除く）であり、うち13例を済生会熊本病院に搬送して急性期治療を行った。急性大動脈解離は4例（CPA1例）であった。急性心不全はほとんどの症例は当院で入院治療を行った。（表1）

（例）

急性心筋梗塞（CPA、転送を含む）	27
急性大動脈解離（CPAを含む）	4
心不全	54
不整脈	9
狭心症、OMI	8
血管疾患	6
弁膜症	18

（表1）

循環器疾患以外では、脳血管疾患を28例担当したが、年途中から神経内科医師が就任し、前年に比べると少なくなった。慢性腎臓病などの腎泌尿器系の疾患も腎臓内科医師就任のため減少した。脱水やめまい、などの疾患も受け持った。

一方、外来診療では、生活習慣病を中心に患者が増加しており、毎月約900～1000人の患者の診療を行った。

循環器関連の検査はほぼ例年並みだった。（表2）

（件）

	2014年度	2013年度
心エコー	1,676	1,776
負荷エコー	16	20
トレッドミル	62	72
ホルター	150	140
頸部血管エコー	241	232
下肢血管エコー	247	237
ABI	273	278
心臓CT	22	35
血管CT, MRI	99	123

（表2）

